



Informatica® Multidomain MDM
10.5 HotFix 4

**Data Director コンフィグ
ュレーションマネージャの
オンラインヘルプ**

本ソフトウェアおよびマニュアルは、使用および開示の制限を定めた個別の使用許諾契約のもとでのみ提供されています。本マニュアルのいかなる部分も、いかなる手段（電子的複製、写真複製、録音など）によっても、Informatica LLC の事前の承諾なしに複製または転載することは禁じられています。

米政府の権利プログラム、ソフトウェア、データベース、および関連文書や技術データは、米国政府の顧客に配信され、「商用コンピュータソフトウェア」または「商業技術データ」は、該当する連邦政府の取得規制と代理店固有の補足規定に基づきます。このように、使用、複製、開示、変更、および適応は、適用される政府の契約に規定されている制限およびライセンス条項に従うものとし、政府契約の条項によって適当な範囲において、FAR 52.227-19、商用コンピュータソフトウェアライセンスの追加権利を規定します。

Informatica および Informatica ロゴは、米国およびその他の国における Informatica LLC の商標または登録商標です。Informatica の商標の最新リストは、Web (<https://www.informatica.com/trademarks.html>) にあります。その他の企業名および製品名は、それぞれの企業の商標または登録商標です。

本ソフトウェアまたはドキュメンテーション（あるいはその両方）の一部は、第三者が保有する著作権の対象となります。必要な第三者の通知は、製品に含まれています。

本マニュアルの情報は、予告なしに変更されることがあります。このドキュメントで問題が見つかった場合は、infa_documentation@informatica.com までご報告ください。

Informatica 製品は、それらが提供される契約の条件に従って保証されます。Informatica は、商品性、特定目的への適合性、非侵害性の保証等を含めて、明示的または黙示的ないかなる種類の保証をせず、本マニュアルの情報を「現状のまま」提供するものとします。

発行日: 2025-06-12

目次

序文	8
Informatica のリソース.....	8
Informatica Network.....	8
Informatica ナレッジベース.....	8
Informatica マニュアル.....	9
Informatica 製品可用性マトリックス.....	9
Informatica Velocity.....	9
Informatica Marketplace.....	9
Informatica グローバルカスタマサポート.....	9
 第 1 章 : 基本操作	10
Informatica Data Director コンフィギュレーションマネージャの起動.....	10
言語表示.....	11
ホームページ.....	11
画面領域.....	11
コマンドバー.....	12
手動による変更の保存.....	13
 第 2 章 : IDD アプリケーション	14
IDD アプリケーション.....	14
IDD アプリケーションの管理.....	14
アプリケーションの設定.....	15
 第 3 章 : 新しい IDD アプリケーションの作成	16
基本手順.....	16
IDD アプリケーションのプロパティ.....	17
 第 4 章 : IDD アプリケーションの編集	18
基本手順.....	18
編集について.....	18
コマンドボタン.....	19
IDD アプリケーションのプロパティ.....	19
 第 5 章 : 論理 ORS データベースの設定	20
論理 ORS データベースと物理 ORS データベース.....	20
論理 ORS データベースの追加.....	20
論理 ORS データベースを物理 ORS データベースにバインドします.....	21
 第 6 章 : サブジェクト領域の概要	22
サブジェクト領域の設定.....	23

Hub Store でのスキーマ表現.	23
サブジェクト領域の履歴.	24
サブジェクト領域.	24
サブジェクト領域グループ.	24
サブジェクト領域の子と孫.	24
サブジェクト領域間のリレーション.	25
リレーションのタイプ.	25
一致パス.	25
[サブジェクト領域] タブ.	26
ツリーレベル.	26
ツリーでの操作.	26

第 7 章: サブジェクト領域グループの設定. 27

サブジェクト領域グループの設定.	27
基本手順.	27
サブジェクト領域グループの追加.	27
サブジェクト領域グループの編集.	27
サブジェクト領域グループの削除.	28
サブジェクト領域グループのプロパティ.	28

第 8 章: サブジェクト領域の設定. 29

サブジェクト領域の設定.	29
基本手順.	30
サブジェクト領域の追加.	30
サブジェクト領域の編集.	30
サブジェクト領域の削除.	30
サブジェクト領域のプロパティ.	30
プロパティタブ.	31
レイアウトの設定.	32
フォームビューのカラム数の変更.	32
表示するカラムの変更.	32
カラムレイアウトの設定.	32
一致設定の実施.	36
一致設定.	37
検索の設定.	38
一致カラムの設定.	38
子エンティティでの検索の設定.	38
データセキュリティの設定.	39
セキュリティフィルタの設定によるルックアップフィールドの値のリストの制限.	39
データマスキングの設定.	40
クレンジング関数の設定.	40
クレンジング関数について.	41
インラインクレンジング関数.	41

入力と出力.	41
クレンジング関数が呼び出されるタイミング.	41
カスタムデータの検証.	41
カラムのクレンジング関数の編集.	41
ラベルの設定.	42
タスク割り当ての設定.	43
サブジェクト領域の子タブの順序の設定.	43
第 9 章 : サブジェクト領域の子の設定.	44
基本手順.	44
サブジェクト領域の子の追加.	44
サブジェクト領域の子の編集.	44
サブジェクト領域の子の削除.	44
レイアウトの設定.	45
クレンジング関数の設定.	45
サブジェクト領域の子のプロパティ.	45
プロパティタブ.	46
第 10 章 : サブジェクト領域の孫の設定.	47
基本手順.	47
サブジェクト領域の孫の追加.	47
サブジェクト領域の孫の編集.	47
サブジェクト領域の孫の削除.	47
レイアウトの設定.	48
クレンジング関数の設定.	48
サブジェクト領域の孫のプロパティ.	48
プロパティタブ.	49
第 11 章 : IDD アプリケーションの削除.	50
基本手順.	50
IDD アプリケーションの削除による影響.	50
第 12 章 : IDD アプリケーションのエクスポート.	51
基本手順.	51
エクスポートについて.	51
エクスポート後の手動設定.	51
エクスポート後のインポート.	52
第 13 章 : IDD アプリケーション設定の検証.	53
基本手順.	53
検証について.	53
IDD アプリケーション設定を検証する理由.	53
IDD アプリケーション設定を検証するタイミング.	53

検証結果.	54
検証レベル.	54
検証結果の解釈.	55
第 14 章 : バンドルの移行.	56
基本手順.	56
バンドルの移行について.	56
第 15 章 : アプリケーションの状態の変更.	57
基本手順.	57
アプリケーションの状態について.	57
アプリケーションの状態.	58
アプリケーションデプロイメント.	58
第 16 章 : IDD アプリケーションコンポーネントのインポート.	59
基本手順.	59
インポートについて.	59
インポートオプション.	60
第 17 章 : IDD アプリケーションの再デプロイ.	61
IDD アプリケーションの再デプロイ.	61
第 18 章 : IDD アプリケーションのキャッシュのクリア.	62
基本手順.	62
IDD アプリケーションのメタデータキャッシュ.	62
第 19 章 : デプロイされた IDD アプリケーションのテスト.	63
デプロイされた IDD アプリケーションのテスト.	63
基本手順.	63
テストのヒント.	63
第 20 章 : IDD アプリケーションコンポーネント.	64
IDD アプリケーションコンポーネント.	64
IDD コンフィギュレーションファイル.	64
IDD バンドル.	65
メタデータバンドル.	65
メッセージバンドル.	65
エラーコードバンドル.	65
オンラインヘルプファイル.	65
IDD ヘルプ.	65
カスタム IDD ヘルプ.	66
アプリケーションロゴ.	66
ユーザーイグジットの実装.	66

第 21 章 : IDD アプリケーションへのコントロールのバインド.....	67
基本手順.....	67
コントロールの追加.....	67
コントロールの編集.....	67
コントロールの削除.....	68
URL の表示.....	68
コントロールのデプロイ.....	68
コントロールデータを含む ZIP ファイルのアップロード.....	68
コントロールプロパティ.....	69
第 22 章 : ビジネスエンティティおよびビジネスエンティティサービ ス構成ファイルの生成.....	70
ビジネスエンティティおよびビジネスエンティティサービス構成ファイルの生成の概要.....	70
ビジネスエンティティおよびビジネスエンティティサービス構成ファイルの生成.....	71
索引.....	72

序文

Informatica Data Director (IDD) は、Web ベースのユーティリティで、IDD アプリケーションの追加、修正、管理に使用します。

IDD アプリケーションは、IDD 実装の主要な設定およびデプロイメントユニットです。IDD アプリケーションは、ビジネスユーザーが IDD を起動し、ログインしたときに表示されます。

プロセス全体、設計上の考慮事項、手動設定タスク、関連参照情報を含む、IDD 構成の詳細については、『*Multidomain MDM Data Director の実装ガイド*』を参照してください。

ビジネスエンティティ構成およびエンティティ 360 フレームワークの詳細については、『*Multidomain MDM のプロビジョニングツールガイド*』を参照してください。

このオンラインヘルプでは、IDD アプリケーション実装プロセスのうち、IDD コンフィギュレーションマネージャの使用に関する部分についてのみ説明しています。

Informatica のリソース

Informatica は、Informatica Network やその他のオンラインポータルを通じてさまざまな製品リソースを提供しています。リソースを使用して Informatica 製品とソリューションを最大限に活用し、その他の Informatica ユーザーや各分野の専門家から知見を得ることができます。

Informatica Network

Informatica Network は、Informatica ナレッジベースや Informatica グローバルカスタマサポートなど、多くのリソースへの入口です。Informatica Network を利用するには、<https://network.informatica.com> にアクセスしてください。

Informatica Network メンバーは、次のオプションを利用できます。

- ナレッジベースで製品リソースを検索できます。
- 製品の提供情報を表示できます。
- サポートケースを作成して確認できます。
- 最寄りの Informatica ユーザーグループネットワークを検索して、他のユーザーと共同作業を行えます。

Informatica ナレッジベース

Informatica ナレッジベースを使用して、ハウツー記事、ベストプラクティス、よくある質問に対する回答など、製品リソースを見つけることができます。

ナレッジベースを検索するには、<https://search.informatica.com> にアクセスしてください。ナレッジベースに関する質問、コメント、ご意見の連絡先は、Informatica ナレッジベースチーム (KB_Feedback@informatica.com) です。

Informatica マニュアル

Informatica マニュアルポータルでは、最新および最近の製品リリースに関するドキュメントの膨大なライブラリを参照できます。マニュアルポータルを利用するには、<https://docs.informatica.com> にアクセスしてください。

Informatica はマニュアルポータルに加えて、Informatica ナレッジベースでも多くの製品に関するドキュメントを管理しています。マニュアルポータルで製品または製品バージョンに関するマニュアルが見つからない場合は、<https://search.informatica.com> でナレッジベースを検索してください。

製品マニュアルに関する質問、コメント、ご意見については、Informatica マニュアルチーム (infa_documentation@informatica.com) までご連絡ください。

Informatica 製品可用性マトリックス

製品可用性マトリックス (PAM) には、製品リリースでサポートされるオペレーティングシステム、データベースなどのデータソースおよびターゲットが示されています。Informatica PAM は、<https://network.informatica.com/community/informatica-network/product-availability-matrices> で参照できます。

Informatica Velocity

Informatica Velocity は、Informatica プロフェッショナルサービスが開発したヒントとベストプラクティスのコレクションで、多数のデータ管理プロジェクトから得た実体験に基づいています。Informatica Velocity には、世界中の組織と連携してデータ管理ソリューションを計画、開発、デプロイ、管理する Informatica コンサルタントによる集合知を表しています。

Informatica Velocity リソースには、<http://velocity.informatica.com> からアクセスしてください。Informatica Velocity についての質問、コメント、またはアイデアがある場合は、ips@informatica.com から Informatica プロフェッショナルサービスにお問い合わせください。

Informatica Marketplace

Informatica Marketplace は、お使いの Informatica 製品を拡張したり強化したりするソリューションを検索できるフォーラムです。Marketplace で、Informatica デベロッパーやパートナーからの多数のソリューションを活用すれば、生産性を向上したり、プロジェクトでの実装時間を短縮したりできます。Informatica Marketplace は、<https://marketplace.informatica.com> からアクセスしてください。

Informatica グローバルカスタマサポート

電話または Informatica Network からグローバルサポートセンターに連絡できます。

各地域の Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica Web サイト (<https://www.informatica.com/services-and-training/customer-success-services/contact-us.html>) を参照してください。

Informatica Network でオンラインサポートリソースを見つけるには、<https://network.informatica.com> にアクセスし、eSupport オプションを選択します。

第 1 章

基本操作

この章では、以下の項目について説明します。

- [Informatica Data Director コンフィギュレーションマネージャの起動, 10 ページ](#)
- [言語表示, 11 ページ](#)
- [ホームページ, 11 ページ](#)
- [手動による変更の保存, 13 ページ](#)

Informatica Data Director コンフィギュレーションマネージャの起動

Informatica Data Director コンフィギュレーションマネージャを起動するには、サポートされている Web ブラウザを使用します。

1. サポートされている Web ブラウザを開きます。

サポートされている Web ブラウザの詳細は、Informatica マイサポートポータル (<https://mysupport.informatica.com/community/my-support/product-availability-matrices>) で Product Availability Matrix を参照してください。

2. アドレスバーに次の URL を入力し、IDD コンフィギュレーションマネージャのログインページにアクセスします。

`http://<MDM Hub host: MDM Hub ホスト>:<port number: ポート番号>/bdd/config/`

3. ログイン名とパスワードを入力し、**ログイン** をクリックします。

すべてのベースオブジェクトに対して、すべての特権を持つユーザーとしてログインする必要があります。ユーザー特権の設定の詳細については、『*Multidomain MDM のセキュリティガイド*』を参照してください。

Informatica Data Director コンフィギュレーションマネージャが起動し、[アプリケーション] ページが表示されます。

言語表示

ユーザーインターフェースは、IDD Configuration Manager の別の言語に変更できます。

ログインページのユーザーインターフェースの言語を変更できます。IDD Configuration Manager では、ログインページで最後に使用された言語に関する情報が保存されます。次回にログインページを表示すると、最後に使用されたユーザーインターフェースの言語が IDD Configuration Manager に表示されます。

ログインが完了すると、IDD Configuration Manager には、コントロールボタン、フォーム、メニュー、およびナビゲーションリンクなどのインターフェースの要素がログインページで選択された言語で表示されます。

注: MDM Multidomain Edition for Microsoft SQL Server のバージョン 9.6 で使用可能な言語は英語のみです。

ホームページ

ログイン後、IDD Configuration Manager にホームページが表示されます。

画面領域

ホームページには次の領域から構成されます。

領域	説明
オブジェクトツリー	定義済みオブジェクトの階層。 <ul style="list-style-type: none">- Applications リスト-設定済み IDD アプリケーションのリスト- Control Types-設定済みコントロールタイプのリスト。
コマンドバー	利用可能なコマンド（下記）。
プロパティペイン	オブジェクトツリーで選択された項目のプロパティ。 <ul style="list-style-type: none">- Applications - 設定済み IDD アプリケーションとそれらのプロパティのリスト- アプリケーション-選択されたアプリケーションの編集画面。- Control Types-設定済みコントロールタイプのリスト。- コントロールタイプ-選択されたコントロールタイプの編集画面。
デプロイメントステータス	アプリケーションリスト内で選択されている IDD アプリケーションのデプロイメントステータス。
ヘルプ	クリックすると、IDD Configuration Manager のオンラインヘルプが表示されます。
ログアウト	クリックすると、IDD Configuration Manager からログアウトします。
言語	ユーザーインターフェースの言語の変更に使用します。
バージョン情報	Informatica MDM Data Director のバージョン情報と Informatica MDM Hub の環境情報を表示します。

関連項目：

- [「IDD アプリケーション」 \(ページ 14\)](#)

コマンドバー

利用可能なコマンドバーは、オブジェクトツリー（Applications リストまたは Control Types リスト）での選択によって異なります。

アプリケーション

コマンド	説明	参照先
追加	新しい IDD アプリケーションの追加	第 3 章, 「新しい IDD アプリケーションの作成」 (ページ 16)
編集	選択された IDD アプリケーションの設定を編集します。	第 4 章, 「IDD アプリケーションの編集」 (ページ 18)
削除	選択された IDD アプリケーションを削除します。	第 11 章, 「IDD アプリケーションの削除」 (ページ 50)
エクスポート	IDD アプリケーションの設定をエクスポートします (ZIP ファイル)。	第 12 章, 「IDD アプリケーションのエクスポート」 (ページ 51)
検証	選択された IDD アプリケーションを検証します。	第 13 章, 「IDD アプリケーション設定の検証」 (ページ 53)
アプリケーションの状態	IDD アプリケーションの状態 (完全なデプロイメント、制限されたデプロイメント、または未デプロイ) を変更します。	第 15 章, 「アプリケーションの状態の変更」 (ページ 57)
インポート	IDD アプリケーション設定のインポート	第 16 章, 「IDD アプリケーションコンポーネントのインポート」 (ページ 59)
再デプロイ	IDD アプリケーションを再デプロイします。	第 17 章, 「IDD アプリケーションの再デプロイ」 (ページ 61)
キャッシュのクリア	選択された IDD アプリケーションのメタデータキャッシュをクリアします。	第 18 章, 「IDD アプリケーションのキャッシュのクリア」 (ページ 62)

コントロールタイプ

注: 注: Informatica Data Controls (IDC) 機能は、使用している MDM Hub 実装でライセンスを供与されている場合にのみ利用できます。

注: Informatica Data Controls は、MDM Multidomain Edition for Microsoft SQL Server のバージョン 9.6 では使用できません。

コマンド	説明
追加	新しいコントロールタイプを追加します。
編集	選択されたコントロールタイプの設定を編集します。
削除	選択されたコントロールタイプを削除します。

手動による変更の保存

変更を加えるときは常に、**【保存】** をクリックして明示的に変更を保存する必要があります。IDD Configuration Manager によって自動的に変更が保存されることはありません。

第 2 章

IDD アプリケーション

この章では、以下の項目について説明します。

- [IDD アプリケーション, 14 ページ](#)
- [IDD アプリケーションの管理, 14 ページ](#)
- [アプリケーションの設定, 15 ページ](#)

IDD アプリケーション

IDD アプリケーションは、IDD 実装の主要な設定およびデプロイメントユニットです。IDD アプリケーションは、ビジネスユーザーが IDD を起動し、ログインしたときに表示されます。

IDD の実装プロセス全体、設計上の考慮事項、手動設定タスク、補足的な参照情報など、IDD 設定に関する包括的な情報については、『*Multidomain MDM Data Director の実装ガイド*』を参照してください。このオンラインヘルプでは、IDD アプリケーション実装プロセスの、IDD Configuration Manager を使用して実行する部分についてのみ説明します。

IDD アプリケーションの管理

IDD アプリケーションを管理するには、以下のタスクを実行する必要があります。

- 新しい IDD アプリケーションの作成
- IDD アプリケーションの編集
- IDD アプリケーションの削除
- IDD アプリケーションのエクスポート
- IDD アプリケーション設定の検証
- アプリケーションの状態の変更
- IDD アプリケーションコンポーネントのインポート
- IDD アプリケーションの再デプロイ
- IDD アプリケーションのキャッシュのクリア
- デプロイされた IDD アプリケーションのテスト

アプリケーションの設定

- サブジェクト領域の設定
 - サブジェクト領域の設定
 - サブジェクト領域グループの設定
 - サブジェクト領域の子の設定
 - サブジェクト領域の孫の設定
- タスクの設定
- IDD アプリケーションへのコントロールのバインド（Informatica MDM Hub の実装に Informatica Data Controls のライセンスがある場合に利用可能）

注: Informatica Data Controls は、MDM Multidomain Edition for Microsoft SQL Server のバージョン 9.6 では使用できません。

第 3 章

新しい IDD アプリケーションの作成

この章では、以下の項目について説明します。

- [基本手順, 16 ページ](#)
- [IDD アプリケーションのプロパティ, 17 ページ](#)

基本手順

新しい IDD アプリケーションを作成する手順

1. IDD Configuration Manager のホームページで、**[追加]** ボタンをクリックします。
2. [アプリケーションの追加] ダイアログで、IDD アプリケーションのプロパティを指定します。
3. 1 つ以上の論理 ORS データベースを追加します。
 1. アプリケーションツリーで、追加するアプリケーションをクリックします。
 2. 論理 ORS データベースセクションで、**[追加]** ボタンをクリックします。
 3. 論理 ORS データベースの名前を指定し、ドロップダウンリストから ORS データベースを選択します。
4. **[保存]** をクリックします。
5. 各論理 ORS データベースを物理 ORS データベースにバインドします。論理 ORS ごとに、関連付けられているドロップダウンリストをクリックし、物理 ORS を選択します。完了したら、**[保存]** をクリックします。

IDD Configuration Manager により、新たに追加した IDD アプリケーションがアプリケーションリストに表示されます。

関連項目：

- [「IDD アプリケーションのプロパティ」 \(ページ 17\)](#)
- [「論理 ORS データベースの設定」 \(ページ 20\)](#)
- [「IDD アプリケーションの編集」 \(ページ 18\)](#)

IDD アプリケーションのプロパティ

新しい IDD アプリケーションは以下のプロパティで定義されます。

プロパティ	説明
名前	この IDD アプリケーションの内部（システム）名。英字と数字のみを使用してください。その他の文字は使用できません。
表示名	この IDD アプリケーションのエンドユーザーに表示される名前。
説明	IDD アプリケーションの簡単な説明。
論理 ORS データベース	この IDD アプリケーションに関連付けられた 1 つ以上の論理 ORS データベース。
セッションタイムアウト (分)	IDD アプリケーションのセッションタイムアウトの設定（分単位）。
デフォルトロケール	IDD アプリケーションのロケール

第 4 章

IDD アプリケーションの編集

この章では、以下の項目について説明します。

- [基本手順, 18 ページ](#)
- [編集について, 18 ページ](#)
- [コマンドボタン, 19 ページ](#)
- [IDD アプリケーションのプロパティ, 19 ページ](#)

基本手順

既存の IDD アプリケーションを編集する手順

1. オブジェクトツリーで、編集する IDD アプリケーションの名前を選択します。
2. **【編集】** をクリックします。IDD Configuration Manager により、選択した IDD アプリケーションの **【アプリケーションの編集】** 画面が表示されます。
3. IDD アプリケーションのプロパティを編集します。
4. **【保存】** をクリックして変更を保存します。

ヒント: 変更を保存せずに IDD Configuration Manager のホームページに戻るには、アプリケーションリストの一番上にある **【アプリケーション】** をクリックします。

編集について

【アプリケーションの編集】 画面を表示するには **【編集】** コマンドを使用します。**【アプリケーションの編集】** 画面では、選択した IDD アプリケーションの設定を表示したり変更したりすることができます。設定の詳細を導き、物理 ORS に関するメタデータをロードして利用可能なオプションを提示します。

コマンドボタン

「アプリケーションの編集」画面には、次のコマンドボタンがあります。

ボタン	説明
保存	データベースに対する最新の変更を保存します。アプリケーションの状態が【未デプロイ】以外の場合は、IDD アプリケーションが保存後、再デプロイされます。
検証	現在の IDD アプリケーション設定についての検証を実行し、検証レポートを表示します。
ORS のバインド	論理/物理 ORS バインドの変更に使用されます。

関連項目：

- [「論理 ORS データベースの設定」 \(ページ 20\)](#)

IDD アプリケーションのプロパティ

新しい IDD アプリケーションは以下のプロパティで定義されます。

プロパティ	説明
名前	この IDD アプリケーションの内部（システム）名。英字と数字のみを使用してください。その他の文字は使用できません。
表示名	この IDD アプリケーションのエンドユーザーに表示される名前。
説明	IDD アプリケーションの簡単な説明。
論理 ORS データベース	この IDD アプリケーションに関連付けられた 1 つ以上の論理 ORS データベース。
セッションタイムアウト (分)	IDD アプリケーションのセッションタイムアウトの設定（分単位）。
デフォルトロケール	IDD アプリケーションのロケール

第 5 章

論理 ORS データベースの設定

この章では、以下の項目について説明します。

- [論理 ORS データベースと物理 ORS データベース, 20 ページ](#)
- [論理 ORS データベースの追加, 20 ページ](#)
- [論理 ORS データベースを物理 ORS データベースにバインドします。 , 21 ページ](#)

論理 ORS データベースと物理 ORS データベース

IDD アプリケーション設定により、1 つ以上の論理 ORS データベースが宣言されます。 *論理 ORS* データベースは、Hub コンソール内で設定される、Hub Store 内の物理 ORS データベースへの IDD 設定ポイントです。設定内で参照される Informatica MDM Hub オブジェクトはすべて、常に特定の論理 ORS のコンテキストにあります。IDD 設定を有効にするためには、参照されるオブジェクトは物理 ORS 内に存在している必要があります。

IDD アプリケーションを追加またはインポートする前に、それによって宣言される論理 ORS データベースを、Informatica MDM Hub に登録されている物理 ORS にバインドする必要があります。このバインディングの用途は次のとおりです。

- 設定の検証
- IDD Configuration Manager による ORS に関するメタデータの取得
- 実行中の IDD アプリケーションの接続先の ORS として

論理 ORS データベースの追加

新しい IDD アプリケーションを追加するときに、論理 ORS データベースを追加できます。

関連項目：

- [「新しい IDD アプリケーションの作成」 \(ページ 16\)](#)

論理 ORS データベースを物理 ORS データベースにバインドします。

新しい IDD アプリケーションを追加、IDD アプリケーションをインポート、および既存のアプリケーションを編集するときに、論理 ORS データベースをバインドできます。

新しいアプリケーションを作成すると、IDD Configuration Manager から、論理 ORS を追加してその論理 ORS を物理 ORS データベースにバインドすることが求められます。 リストから物理 ORS を選択し、**[保存]** をクリックします。

既存のアプリケーションの編集時には、**[ORS のバインド]** をクリックし、リストから物理 ORS を選択して、**[保存]** をクリックします。 1 つのダイアログ内ですべての論理 ORS を物理 ORS データベースにバインドできます。

第 6 章

サブジェクト領域の概要

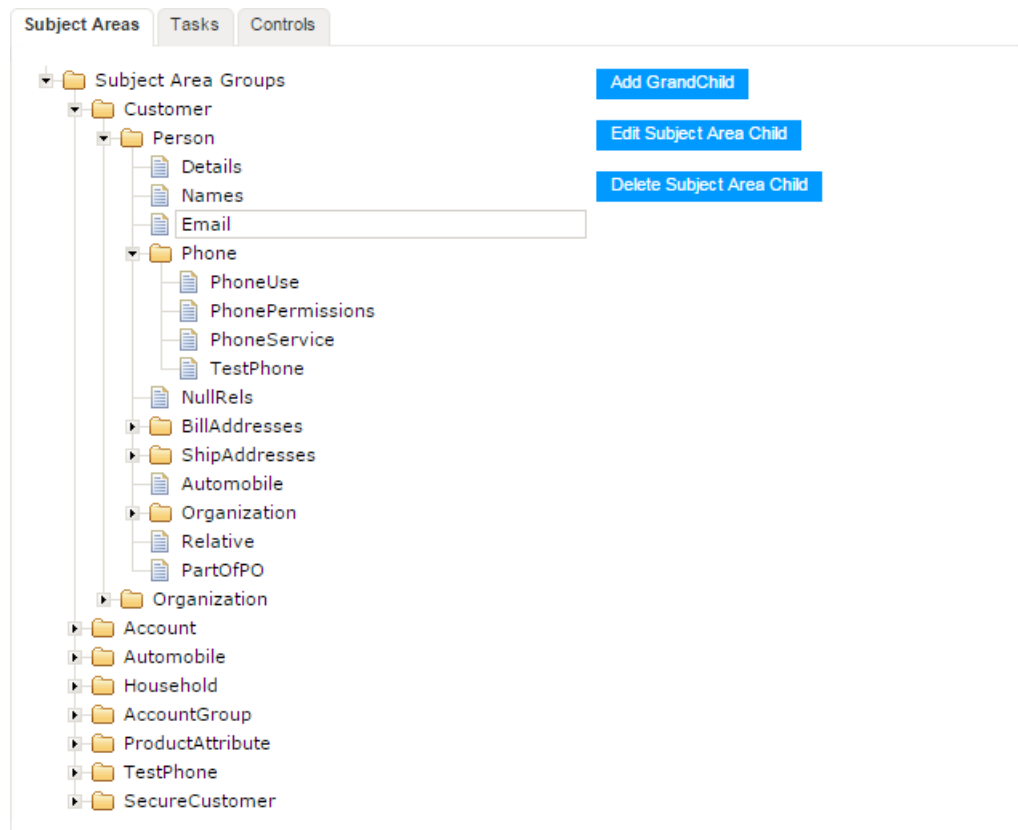
この章では、以下の項目について説明します。

- [サブジェクト領域の設定, 23 ページ](#)
- [Hub Store でのスキーマ表現, 23 ページ](#)
- [サブジェクト領域の履歴, 24 ページ](#)
- [サブジェクト領域間のリレーション, 25 ページ](#)
- [\[サブジェクト領域\] タブ, 26 ページ](#)

サブジェクト領域の設定

Informatica Data Director では、データはサブジェクト領域の階層構造にまとめられています。サブジェクト領域を設定するには、IDD コンフィギュレーションマネージャの [アプリケーション] ページで [アプリケーションの編集] ペイン内の [サブジェクト領域] タブを使用します。

次の図は、サンプルのオペレーショナル参照ストアに基づいてサブジェクト領域を設定するための [サブジェクト領域] タブを示しています。



Hub Store でのスキーマ表現

Hub Store では、ORS で定義されたテーブルとリレーションに関する詳細なメタデータが保持されます。このメタデータには、次を表すベースオブジェクトテーブル間のリレーションが含まれます。

- ルックアップテーブルへの参照
- 親と関連付けられている子データの間のリンク
- サブジェクト領域間のリンク

Hub Store により、リレーションがどのように扱われるべきかを IDD が認識できるようにするメタデータの一部が提供されます。例えば、IDD は、(スキーママネージャで設定された) ベースオブジェクトルックアップインジケータの設定を使用して、IDD アプリケーションユーザーが項目を選択する、事前に作成された値のドロップダウンリストのルックアップとして関連付けられたテーブルを扱います。

他のリレーションでは、IDD アプリケーションは、リレーションを正しく認識するために (リレーションがサブジェクト領域内のテーブル間のリレーションとして解釈されるべきか、サブジェクト領域間のリレーション

として解釈されるべきか) 追加情報を必要とする場合があります。IDD についてのこの追加のリレーション情報を指定するには、IDD Configuration Manager を使用します。

ヒント: Hub コンソール内のスキーマに変更を加える (ベースオブジェクトへのカラムの追加、パッケージやクエリ定義の変更など) たびに、キャッシュをクリアしてこれらの変更が Data Director に反映されるようにします。さらに、ブラウザ環境が最新の状態になるように、ブラウザキャッシュのクリアやページの再ロードを検討してください。

関連項目:

- [「IDD アプリケーションのキャッシュのクリア」 \(ページ 62\)](#)

サブジェクト領域の履歴

IDD アプリケーションでは、データはサブジェクト領域の階層を中心に構成されます。サブジェクト領域の階層には、次のコンポーネントが含まれます。

1. サブジェクト領域グループ
2. サブジェクト領域
3. サブジェクト領域の子
4. サブジェクト領域の孫

サブジェクト領域

サブジェクト領域は、IDD アプリケーションの核となる構成概念です。サブジェクト領域に関連または類似する用語または概念として、ビジネスオブジェクト、ビジネスエンティティ、および階層エンティティがあります。IDD は、サブジェクト領域定義を使用して、ORS 内の各外部キーリレーションをどのように扱うかを決定します。

サブジェクト領域グループ

各サブジェクト領域は、サブジェクト領域グループに属します。サブジェクト領域グループでは、サブジェクト領域がそれらのルートとして持つベースオブジェクト (プライマリオブジェクトとも呼ばれる) を定義します。サブジェクト領域グループには、1 つ以上のサブジェクト領域を含めることができます。例えば、Party モデル (さまざまなエンティティタイプを表す 1 つのベースオブジェクト) を使用する ORS には、複数のサブジェクト領域を持つサブジェクト領域グループがあります。

サブジェクト領域の子と孫

サブジェクト領域には、子オブジェクトと孫オブジェクトを含めることができます。

- サブジェクト領域は、1 つ以上の子オブジェクト (サブジェクト領域の子) の親オブジェクトになることができます。
- サブジェクト領域の子オブジェクトは、1 つ以上の子オブジェクト (サブジェクト領域の孫) の親になることができます。

サブジェクト領域間のリレーション

IDD アプリケーションでは、サブジェクト領域間のリレーションは、Hub ストア内のベースオブジェクト間で設定されるリレーションに基づきます（『*Multidomain MDM の設定ガイド*』で説明されているように、Hub コンソール内のスキーママネージャを使用）。

リレーションのタイプ

1 対多の子のリレーション

1 対多のリレーションでは、子レコードにプライマリオブジェクトへの直接外部キーがあります。IDD では、2 種類の 1 対多のリレーションがサポートされています。

リレーション	説明
1 対多	子レコードのリストがプライマリデータの下タブに表示されます。
論理的な 1 対 1	プライマリオブジェクトごとに子レコードが 1 つだけ存在することが想定されています。データはプライマリオブジェクトが含まれる形式で表示されます。複数の子が存在する場合、IDD アプリケーションはこれを解決する手段を提供します。

多対多の子のリレーション

多対多のリレーションでは、子レコードはリレーションテーブルを介してプライマリオブジェクトに関連付けられます。IDD では、2 種類の多対多のリレーションがサポートされています。

リレーション	説明
一部	子レコードはプライマリオブジェクトに属しています。子を追加すると、リレーションレコードと子レコードの両方が追加されます。
参照	子は別のサブジェクト領域です。子を追加すると、リレーションレコードのみが追加されます。IDD ユーザーは、関連付けるサブジェクト領域の子を検索する必要があります。子データを編集するには、その子のサブジェクト領域が開かれている必要があります。この子は、標準リレーションベースオブジェクトまたは HM リレーションベースオブジェクトを介して関連付けることができます。

一致パス

IDD 内のサブジェクト領域の子オブジェクトと孫オブジェクトは、一致パスを使用して定義します。一致パスは、Hub コンソール内のスキーママネージャを使用して設定します。スキーママネージャの詳細については、『*Multidomain MDM の設定ガイド*』を参照してください。IDD アプリケーションは一致パスコンポーネントを使用して子オブジェクト情報を取得するため、（これらのオブジェクト全体で一致を実行しない場合でも）IDD アプリケーションで表示するすべての子オブジェクトの親ベースオブジェクト内で一致パスコンポーネントを作成する必要があります。

サブジェクト領域に子を追加する前に、その子の新しい一致パスを作成する必要があります。そのような一致パスを定義しても、パフォーマンスのオーバーヘッドは発生しません。

[サブジェクト領域] タブ

[アプリケーションの編集] ウィンドウで、[サブジェクト領域] タブにサブジェクト領域の階層がツリー形式で表示されます。

ツリーレベル

[サブジェクト領域] タブ内のツリーには、次のレベルがあります。

ツリーレベル	説明
サブジェクト領域グループ	ルートノード。このアプリケーションに対して定義されたサブジェクト領域グループ。このサブジェクト領域グループのすべてのメンバーが、同じ論理 ORS とプライマリベースオブジェクトを共有します。
サブジェクト領域	サブジェクト領域グループに関連付けられているサブジェクト領域。
サブジェクト領域の子	サブジェクト領域に関連付けられているサブジェクト領域の子。
サブジェクト領域の孫	サブジェクト領域の子に関連付けられているサブジェクト領域の孫。

関連項目：

- [「サブジェクト領域グループの設定」 \(ページ 27\)](#)
- [「サブジェクト領域の設定」 \(ページ 29\)](#)
- [「サブジェクト領域の子の設定」 \(ページ 44\)](#)
- [「サブジェクト領域の孫の設定」 \(ページ 47\)](#)

ツリーでの操作

以下は、ツリー構造内を移動するときに実行できる、さまざまなアクションです。

- 項目のプロパティを示すツールチップを表示するには、階層内の項目の上にマウスポインタを置きます。
- 子項目を表示するには、フォルダを展開します。
- 子項目を非表示にするには、フォルダを折りたたみます。
- リスト内の項目を選択すると、現在選択されている項目に対して実行可能なコマンドを反映するように、[追加]、[編集]、および [削除] ボタンが変化します。
- オブジェクトが赤で表示された場合は、関連付けられている検証の問題がそのオブジェクトに存在することを意味します。

第 7 章

サブジェクト領域グループの設定

この章では、以下の項目について説明します。

- [サブジェクト領域グループの設定, 27 ページ](#)
- [基本手順, 27 ページ](#)

サブジェクト領域グループの設定

サブジェクト領域グループは、1 つ以上のサブジェクト領域のセットで、ルートと同じベースオブジェクト（プライマリオブジェクトとも呼ばれる）を持ちます。すべてのメンバーのサブジェクト領域が属している論理 ORS を識別し、すべてのメンバーが同じプライマリテーブルを共有します。

基本手順

サブジェクト領域グループの追加

1. サブジェクト領域ツリーで、サブジェクト領域グループ（ルートノード）を選択します。
2. **【サブジェクト領域グループの追加】** をクリックします。
3. 必要に応じてプロパティを設定します。
4. **【OK】** をクリックします。

サブジェクト領域グループの編集

1. サブジェクト領域ツリーで、サブジェクト領域グループを選択します。
2. **【サブジェクト領域グループの編集】** をクリックします。
3. 必要に応じて、プロパティを変更します。
4. **【OK】** をクリックします。

サブジェクト領域グループの削除

1. サブジェクト領域ツリーで、サブジェクト領域グループを選択します。
2. **【サブジェクト領域グループの削除】** をクリックします。
3. 削除の確定を求められたら、**【はい】** をクリックします。

サブジェクト領域グループのプロパティ

[サブジェクト領域グループ] ウィンドウに次のプロパティが表示されます。

プロパティ	説明
名前	このサブジェクト領域グループの内部（システム）名。英字と数字のみを使用してください。その他の文字は使用できません。 すべての名前で、数字、英字、アンダースコア文字を使用できます。
表示名	IDD アプリケーションのエンドユーザーに表示される、このサブジェクト領域グループの名前。
論理 ORS	このサブジェクト領域グループの論理 ORS。
プライマリテーブル	このサブジェクト領域グループの全メンバーのプライマリオブジェクト。
検索のみ	選択すると、この IDD アプリケーションでこのサブジェクト領域グループの全メンバーを検索のみで利用できるように指定されます。サブジェクト領域は、別のサブジェクト領域から外部キーを作成するときに表示されます（検索は、関連するレコードを検出するために使用されます）。ただし、この IDD アプリケーションはこれらのサブジェクト領域でデータを作成または更新できません。

第 8 章

サブジェクト領域の設定

この章では、以下の項目について説明します。

- [サブジェクト領域の設定, 29 ページ](#)
- [基本手順, 30 ページ](#)
- [サブジェクト領域のプロパティ, 30 ページ](#)
- [プロパティタブ, 31 ページ](#)
- [レイアウトの設定, 32 ページ](#)
- [一致設定の実施, 36 ページ](#)
- [検索の設定, 38 ページ](#)
- [データセキュリティの設定, 39 ページ](#)
- [データマスキングの設定, 40 ページ](#)
- [クレンジング関数の設定, 40 ページ](#)
- [ラベルの設定, 42 ページ](#)
- [タスク割り当ての設定, 43 ページ](#)
- [サブジェクト領域の子タブの順序の設定, 43 ページ](#)

サブジェクト領域の設定

サブジェクト領域は、ビジネスパースペクティブの単位として扱われるべきデータの集合を表します。サブジェクト領域には、次のものが含まれます。

- ベースオブジェクトの単一のルートレコード
- いくつかの子レコード（1 対多および多対多のリレーションによる）
- 場合によっては、いくつかの孫レコード

サブジェクト領域グループに複数のサブジェクト領域が含まれる場合は、サブジェクト領域ごとにサブジェクト領域を識別する HM エンティティタイプまたはサブタイプの修飾子が定義されます。次も指定します。

- 検索結果の表示に使用するパッケージ
- 重複チェックに使用する一致ルールセットと一致タイプ
- このサブジェクト領域の一部であるプライマリテーブルのカラム

基本手順

サブジェクト領域の追加

1. サブジェクト領域ツリーで、サブジェクト領域を追加するサブジェクト領域グループを選択します。
2. **【サブジェクト領域の追加】** をクリックします。
3. 必要に応じてプロパティを設定します。
4. **【OK】** をクリックします。

サブジェクト領域の編集

1. サブジェクト領域ツリーで、サブジェクト領域を選択します。
2. **【サブジェクト領域の編集】** をクリックします。
3. 必要に応じてプロパティを設定します。
4. **【OK】** をクリックします。

サブジェクト領域の削除

1. サブジェクト領域ツリーで、サブジェクト領域を選択します。
2. **【サブジェクト領域の削除】** をクリックします。
3. 削除の確定を求められたら、**【はい】** をクリックします。

サブジェクト領域のプロパティ

【サブジェクト領域】 ウィンドウに次のプロパティが表示されます。

プロパティ	説明
名前	このサブジェクト領域の内部（システム）名。IDD アプリケーション内で一意である必要があります。英字と数字のみを使用してください。その他の文字は使用できません。
表示名	IDD アプリケーションのエンドユーザーに表示される、このサブジェクト領域の名前。
HM エンティティタイプ	階層マネージャのエンティティタイプで、関連付けることができるオブジェクトの種類を定義します。Hub コンソール内の階層ツールで設定する必要があります。詳細については、『 <i>Multidomain MDM の設定ガイド</i> 』を参照してください。
サブタイプカラム	サブタイプフィルタで使用されるカラム。このサブジェクト領域のタイプコード（カテゴリ）。例えば、住所のタイプ（送付先住所、郵送先住所、または所在地住所）。【HM エンティティタイプ】が選択されている場合は、自動的に設定されます。
一致候補リンクカラム	一致候補リンクカラムは、レイアウトからのどのカラムが、新規データビュータブで、一致候補エンティティを開くハイパーリンクとして表示する必要があるかを定義します。

プロパティ	説明
サブタイプ値	サブタイプフィルタで使用する値。 [HM エンティティタイプ] が選択されている場合は、自動的に設定されます。
検索結果の表示パッケージ	検索結果の表示に使用される表示パッケージ。 Hub コンソール内のパッケージツールで作成する必要があります。詳細については、『 <i>Multidomain MDM の設定ガイド</i> 』を参照してください。
デフォルトの承認タスク	デフォルトの承認タスクタイプを定義し、各サブジェクト領域に対してさまざまなワークフローを設定できるようになります。
相互参照の表示	選択されている場合は、この IDD アプリケーションがプライマリオブジェクトの相互参照が表示されるサブジェクト領域の子タブを表示します。

プロパティタブ

タブ	説明
レイアウト	表示および編集のために IDD アプリケーションで利用可能なベースオブジェクトの列、使用する UI コンポーネントのタイプ、およびルックアップである場合にルックアップデータがローカライズされるかどうかを設定します。
一致設定	重複チェックに使用する一致ルールセットと一致タイプを設定します。
検索	検索プロパティを設定します。
データセキュリティ	サブジェクト領域のロールベース、行レベルのセキュリティを設定します。
データマスキング	重要な情報へのアクセスを許可されていない IDD ユーザーからそのような情報を隠す設定。
クレンジング	クレンジングと検証に使用されるクレンジング関数を設定します。
ラベル	サブジェクト領域に対するラベルの生成方法を設定します。
タスクの割り当て	タスクの割り当て方法、タイプごとのタスクの割り当て先のロールまたはユーザーを設定します。
子の順序	サブジェクト領域のデータビュー内でのサブジェクト領域の子の順序を設定します。

関連項目：

- [「レイアウトの設定」 \(ページ 32\)](#)
- [「一致設定の実施」 \(ページ 36\)](#)
- [「検索の設定」 \(ページ 38\)](#)
- [「データセキュリティの設定」 \(ページ 39\)](#)
- [「クレンジング関数の設定」 \(ページ 40\)](#)

- [「ラベルの設定」 \(ページ 42\)](#)
- [「サブジェクト領域の子タブの順序の設定」 \(ページ 43\)](#)

レイアウトの設定

【レイアウト】 タブをクリックし、レイアウトを設定します。

ヒント: このセクションの説明は、サブジェクト領域、サブジェクト領域の子、およびサブジェクト領域の孫の【レイアウト】 タブに適用されます。

フォームビューのカラム数の変更

1. 設定する項目（サブジェクト領域、サブジェクト領域の子、またはサブジェクト領域の孫）を編集します。
2. 【フォームビュー内のカラム数】の横にあるドロップダウンリストをクリックし、希望のカラム数を選択します。
3. 【OK】 をクリックして変更を保存します。

表示するカラムの変更

1. 設定する項目（サブジェクト領域、サブジェクト領域の子、またはサブジェクト領域の孫）を編集します。
2. 【レイアウト】 タブで、【カラム選択の変更】 をクリックします。
3. 【カラム選択】 ダイアログで、この項目（サブジェクト領域、サブジェクト領域の子、またはサブジェクト領域の孫）に対して表示するカラム数と、それらを表示する順序を選択します。
4. 【OK】 をクリックして変更を保存します。

カラムレイアウトの設定

1. 設定する項目（サブジェクト領域、サブジェクト領域の子、またはサブジェクト領域の孫）を編集します。
2. 【レイアウト】 タブで、設定するカラムを選択します。
3. 【レイアウトの編集】 をクリックします。
4. レイアウトのプロパティを設定します。
5. 【OK】 をクリックして変更を保存します。

カラムの順序の変更

1. 設定する項目（サブジェクト領域、サブジェクト領域の子、またはサブジェクト領域の孫）を編集します。
2. 【レイアウト】 タブで、リスト内のカラムを選択してコマンドボタン（上、下、最初、最後）をクリックすることにより、別の場所に移動します。
3. 【OK】 をクリックして変更を保存します。

カラムレイアウトプロパティ

設定	説明
カラム名	選択したカラムの名前。
スタイルの編集	IDD アプリケーションユーザーに対するカラムの表示方法を指定します。 次のうち 1 つの値になります。 <ul style="list-style-type: none"> - フィールド - テキスト領域 - チェックボックス - Calendar または Long Calendar (データフィールド)
フィールドサイズ	表示サイズを指定します。 次のうち 1 つの値になります。 <ul style="list-style-type: none"> - Full Width - Large - Medium - Small
改行	選択されている場合は、フォームビューでこのカラムの後に強制的に改行します。
必須	選択されている場合は、これを必須フィールドにします。 IDD アプリケーションユーザーが値を指定する必要があります。空の値や NULL 値は許可されません。
非表示	選択されている場合は、このフィールドを非表示に指定します。 例えば、クレンジング関数が含まれるフィールドを使用しているが、それを IDD アプリケーションユーザーに表示しない場合に、これを選択します。 クレンジング関数を使用するには、ここでカラムを選択する必要がありますが、[非表示] を選択するとカラムは IDD アプリケーションユーザーには表示されません。
編集可能	選択されている場合は、このフィールドを編集できるかどうかを指定します。 例えば、名+ミドルネーム+姓から文字列を作成するクレンジング関数によって入力される [Full Name] フィールドなど、クレンジング関数の結果が自動的に入力されるフィールドに対して、これを使用します。
HM で表示	選択されている場合は、このフィールドを階層マネージャに表示することを指定します。 例えば、階層を表示する必要があるフィールドを使用する場合に、これを選択できます。

スタイルの編集の設定

スタイルの編集を設定し、ベースオブジェクトのフィールドに対するコントロールを定義することができます。設定できるスタイルの編集のタイプは、次のとおりです: フィールド、テキスト領域、チェックボックス、Calendar、および Long calendar

次の表では、サポートされているデータタイプに設定できるスタイルの編集についての情報が示されています。

データタイプ	スタイルの編集
DATE	Calendar および Long calendar
INT および CHAR(1)	フィールド、テキスト領域、およびチェックボックス
その他	フィールドおよびテキスト領域

注:

- チェックボックスのスタイルの編集を選択し、カラムデータタイプが CHAR(1)である場合は、ベースオブジェクト値に対応する値を定義する必要があります。チェックボックスに対して設定できる値は次の 3 組です: 1/0 値、Y/N 値、T/F 値選択した値の組み合わせに基づいて、対応する値がベースオブジェクトに保存されます。
- チェックボックスのスタイルの編集を選択し、カラムデータタイプが INT の場合、ベースオブジェクト値に対応可能な値は 0 と 1 の整数のみです。
- チェックボックスコントロールが利用可能なのは、データビューの編集モード時のみです。それ以外の場合は、適切な値のみが、例えば **【はい】** または **【いいえ】** のいずれかが、ユーザーに対して表示されます。

ルックアップローカリゼーションプロパティ

IDD アプリケーションは、スキーママネージャでルックアップとして設定されたカラムに対して許容可能な値のドロップダウンリストを自動的に生成します。IDD はルックアップ表示値のローカリゼーションもサポートしています。このタブでは、ルックアップカラムについてのローカライズされた表示値を提供するテーブルを選択します。詳細については、『*Multidomain MDM Data Director の実装ガイド*』を参照してください。

以下の設定を指定してください。

設定	説明
ローカライズされたルックアップテーブル	ルックアップカラムのローカライズされた表示値が含まれるテーブル。
ルックアップ外部キー	ルックアップテーブル内のコードカラムに対する外部キー。
言語コード	ISO の 2 文字の言語コード。
国コード	ISO の 2 文字の国コード。
ローカライズされた名前	ローカライズされたルックアップ表示値。IDD アプリケーションは、最初に、IDD アプリケーションユーザーが選択したロケール（言語または国、あるいはその両方）に基づいてローカライズされたテーブル内でルックアップ名を探します。名前が見つからない場合は、ルックアップテーブルのルックアップ名が使用されます。

兄弟参照プロパティ

兄弟参照は、同じプライマリオブジェクトに関連付けられている子間の外部キー関係です。

特定のデータモデルに、サブジェクト領域内のレコード間の外部キー参照が含まれます。例えば、グループに住所のリストがあるとします。そのグループの別の子レコードが、グループに属している住所のいずれかを参照する必要があります。

以下の設定を指定してください。

プロパティ	説明
サブジェクト領域の子	このカラムによって参照される子の名前。
ラベル	<p>【兄弟参照】カラムに表示されるテキストは、参照される子レコードのカラムが組み合わされたものです。これにより、参照される子レコードにデータが存在する場合に、このテキストが生成される方法が定義されます。デフォルトのパターンは{0}（サブジェクト領域名）です。ラベルの形式を指定するには、カラムを選択し、【ラベルに追加】をクリックします。</p> <p>構文: {0}は常にサブジェクト領域名です。ラベルのカラムは{1}、{2}などです。</p> <p>例: {0} : {2}, {1}. カラムが [名] および [姓] の場合、結果は人物 Doe, John になります。</p>
タスク形式	兄弟レコードのタイトルラベル。ラベルの形式を指定するには、カラムを選択し、 【タスク形式に追加】 をクリックします。タスク形式は、手動マージタスクのタイトルとして使用されます。
属性形式が存在しない	兄弟レコードにパターンを生成するためのデータがないときに使用されます。デフォルトのパターンは{0}（サブジェクト領域名）です。
新しい形式	サブジェクト領域オブジェクトが新規のとき。デフォルトのパターンは [新しい{0}]（新しいサブジェクト領域名）です。
利用可能なカラム	兄弟レコードの利用可能なカラム。
選択したカラム	ラベル形式に含めるように選択したカラム（ 【ラベルに追加】 または 【タスク形式に追加】 をクリックした後）。

依存ルックアッププロパティ

依存ルックアップデータモデルでは、2つのルックアップテーブル間に外部キー関係が存在します。例えば、依存ルックアップで、IDD アプリケーションユーザーはグループタイプを選択でき、いったんグループタイプが選択されると、IDD アプリケーションはユーザーの選択に基づいてグループサブタイプのリストを表示します。

プロパティ	説明
カラムに依存	マスタールックアップカラムとして使用するレイアウトカラム。
ルックアップ外部キー	外部キーとして使用する依存ルックアップテーブル内のカラム。

デフォルト値のプロパティ

フィールドに対してロールベースのデフォルト値を指定できます。IDD アプリケーションユーザーがエンティティを追加すると、それらのロールに基づいたデフォルト値がフィールドに入力されます。例えば、ManageChinaData ロールを持つユーザーの場合は、[国] フィールドに「China」が自動的に入力されるようにすることができます。

[追加] をクリックしてデフォルト値を 1 つ以上のロールに関連付け、次の情報を指定します。

プロパティ	説明
デフォルト値	このフィールドのデフォルト値。フィールドに対して有効な値である必要があります。
使用可能な役割	このデフォルト値を割り当てることができるロールのリスト。
選択したロール	このデフォルト値が割り当てられるロールのリスト。

ロールごとに異なる値を指定することや、複数のロールに同じデフォルト値を割り当てることができます。また、デフォルト値の関連付けの編集や削除も実行できます。Hub コンソールでのロールツールを使用したロールの設定の詳細については、『*Multidomain MDM の設定ガイド*』を参照してください。

一致設定の実施

[一致設定] タブをクリックし、サブジェクト領域に一致設定を設定します。一致設定は、一致プロセスが重複レコードを特定するために使用する条件を定義します。

レコードを追加、または [重複の検索] アクションを選択すると、一致プロセスが実行され、重複レコードが特定されます。一致プロセスは、SearchMatch API を呼び出して、重複レコードを探します。SearchMatch API の詳細については、『*Multidomain MDM サービスの統合フレームワークガイド*』を参照してください。

一致設定には一致ルールセットが必要です。一致ルールセットには、重複レコードの自動マージを行う一致ルールと、重複レコードに対して手動マージを指定する一致ルールを含めることができます。一致ルールと一致ルールセットは、Hub コンソールのスキーママネージャで設定します。詳細については、『*Multidomain MDM の設定ガイド*』を参照してください。

一致設定

適用する一致設定を選択します。

次の表で、一致設定を詳しく説明します。

一致設定	説明
重複チェック用の一致ルールセット	一致ルールセットの名前。この設定を空白にすると、一致プロセスは、デフォルトの一致ルールセットとして定義されている一致ルールセットを使用します。 【一致タイプ=NONE】 を選択している場合、 【ルールによる検索を有効にする】 オプションが有効な一致ルールセットを指定する必要があります。この設定を空白にして、デフォルトの一致ルールセットで 【ルールによる検索を有効にする】 オプションが有効になっていない場合、一致プロセスは、選択されているレコードを使用して、データが含まれているすべての列に基づいて一致ルールを生成します。生成された一致ルールは、Fields 一致目的を使用します。一致目的の詳細については、『 <i>Multidomain MDM の設定ガイド</i> 』を参照してください。
一致タイプ	一致ルールセットから適用する一致ルール。 以下のいずれかの一致タイプを選択します。 <ul style="list-style-type: none">- BOTH。自動マージ一致ルールと手動マージ一致ルールを適用します。- AUTO。自動マージ一致ルールを適用します。- NONE。自動マージ一致ルールと手動マージ一致ルールを適用します。【選択した一致カラム】 リストで完全一致カラムを選択していて、選択されているレコードにその完全一致カラムの値が含まれている場合、一致プロセスは、完全一致カラムと一致ルールに基づいて重複レコードを特定します。
使用可能な一致カラム	ベースオブジェクトレコードで一致カラムとしてマーキングされたカラムのリスト。一致カラムの詳細については、『 <i>Multidomain MDM の設定ガイド</i> 』を参照してください。
選択した一致カラム	オプション。重複レコードの検索範囲を、使用可能な一致カラムの一部に制限します。一致ルールがこのリストにない一致カラムを参照している場合、一致プロセスは、その一致カラムを null 値としてルールを処理します。 このリストは、SearchMatch 要求の一部になります。リストが空の場合、SearchMatch 要求には、使用可能なすべての一致カラムが含まれます。 注: スマート検索機能を使用する場合、検索可能とするすべてのフィールドを選択してください。スマート検索は、これらのフィールドで指定された文字列値を検索します。

ヒント: Informatica Data Director は、拡張検索の場合、SearchMatch API に matchType=NONE を指定します。拡張検索の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition Informatica Data Director Implementation Guide*』を参照してください。

一致タイプ= NONE の例

ベースオブジェクトレコードで、BIRTH_DATE カラムを完全一致カラムとして定義します。**【一致設定】** タブで、**【一致タイプ】** を [NONE] に設定して、BIRTH_DATE カラムを **【選択した一致カラム】** リストに追加します。

レコードを作成すると、一致プロセスは、BIRTH_DATE の値と一致ルールに基づいて、重複レコードを探します。null 一致が有効になっている場合、一致プロセスは、BIRTH_DATE フィールドの null 値を照合できます。

検索の設定

サブジェクト領域の検索を設定するには、**【検索】** タブをクリックします。次のタブを使用して、検索を設定します。

タブ	説明
一致カラム	searchMatch API で検索に使用される一致カラムを強制します。
子での検索	検索に使用されるサブジェクト領域に含まれない、追加のベースオブジェクトでの検索を設定します。設定には、一致パスコンポーネント、名前、表示名、および検索の子のレイアウトがあります。

一致カラムの設定

【検索】 タブの下の **【一致カラム】** タブをクリックし、searchMatch API で検索に使用する一致カラムを設定します。

設定	説明
利用可能な一致カラム	このサブジェクト領域で利用可能な一致カラム。
選択した一致カラム	重複チェックのために searchMatch API で使用される一致カラムを強制します。

子エンティティでの検索の設定

【検索】 タブをクリックしてから、**【検索】** タブの下にある **【子での検索】** タブをクリックして、検索に使用されるサブジェクト領域に含まれない、追加のベースオブジェクトの検索を設定します。これには、サブジェクト領域内のベースオブジェクトまたは関連付けられているがサブジェクト領域に含まれないベースオブジェクトの相互参照での検索を含めることができます。例えば、（一致パスが定義されている）グループ対グループのリレーションがある場合、グループBに関連付けられているグループAを検索できます。

【追加】 をクリックして、次の検索属性を指定します。

設定	説明
一致パスコンポーネント	検索するサブジェクト領域に含まれない子を示す一致パス。
名前	検索するサブジェクト領域に含まれない子の論理名。
表示名	検索するサブジェクト領域に含まれない子の表示名。
検索の子のレイアウト	クエリビルダに含まれる検索用のレイアウトカラム。

ここで定義した設定は、編集や削除も可能です。

関連項目：

- [「レイアウトの設定」 \(ページ 32\)](#)

データセキュリティの設定

【データセキュリティ】 タブをクリックし、サブジェクト領域のデータセキュリティを設定します。

サブジェクト領域のロールベース、行レベルのセキュリティを定義します。サブジェクト領域内のデータレコードへのアクセスを制限します。各制限は、ユーザーロールのメンバーシップに基づいて割り当てられます。

【追加】 をクリックして、次のセキュリティフィルタ属性を定義します。

設定	説明
一致パスコンポーネント	子ベースオブジェクトの一致パス。
カラム	データフィルタを適用するカラム。
フィルタの値	データフィルタに使用する値。
使用可能な役割	Informatica MDM Hub で定義されているセキュリティロール。ロールは Hub コンソールのロールツールを使用して設定します。詳細については、『 <i>Multidomain MDM の設定ガイド</i> 』を参照してください。
選択したロール	このフィルタの影響を受けるセキュリティロール。

ここで定義したセキュリティフィルタ設定は、編集や削除も可能です。

セキュリティフィルタの設定によるルックアップフィールドの値のリストの制限

ユーザーのロールに基づいて、データセキュリティ設定を使用したルックアップフィールドの値のリストを制限できます。例えば、データセキュリティフィルタを使用して、SalesManager - CA のロールを持つユーザーを制限し、性別 - 男性 (M) のみがレコードの表示と作成を行えるようにできます。

以下の手順を実行してセキュリティフィルタを設定し、ルックアップフィールドの値のリストを制限します。

1. IDD 設定マネージャで、編集する IDD アプリケーションを選択し、**【編集】** ボタンをクリックします。
2. **【サブジェクト領域】** タブをクリックします。
3. 編集するサブジェクト領域を選択し、**【サブジェクト領域を編集】** ボタンをクリックします。
4. **【サブジェクト領域】** ウィンドウで、**【データセキュリティ】** タブをクリックします。
5. **【追加】** ボタンをクリックし、新しいデータセキュリティフィルタを追加します。
6. **【セキュリティフィルタ】** ウィンドウで、**【一致パスコンポーネント】** (例えば **【<ルート>】**) を選択します。
7. **【カラム名】** (例えば **【Gender Cd】**) を選択します。
8. **【フィルタの値】** を入力します。

注: ルックアップカラムにはキー (コード) 値を使用する必要があります。例えば、男性の場合はキー値 **M** です。

9. **【有効なロール】** の選択肢で、このデータセキュリティフィルタを追加するユーザーロールを選択し、**【コピー】** ボタンをクリックします。

注:

- このデータセキュリティフィルタを **【有効なロール】** セクションのすべてのユーザーロールに対して設定する場合は、**【すべてコピー】** ボタンをクリックします。
- **【選択されたロール】** セクションからユーザーロールを削除する場合は、ユーザーロールを選択し、**【削除】** ボタンをクリックします。
- **【選択されたロール】** セクションの選択されたユーザーロールをすべて削除する場合は、**【すべて削除】** ボタンをクリックします。

10. **【OK】** をクリックします。

データーマスキングの設定

データーマスキングを設定するには、**【データーマスキング】** タブをクリックします。

データーマスキングの属性を定義するには、**【追加】** をクリックします。

設定	説明
カラム	マスキング（またはデーターマスキング）を適用するカラム。
マスクパターン	マスクする必要のある、式の各部分。
テストデータ	サンプルの値を入力するフィールド。
マスクされた値	【マスクパターン】 で定義された、マスク適用済みの 【テストデータ】 フィールドに入力されたテキストを表しています。
使用可能な役割	Informatica MDM Hub で定義されたセキュリティロール。 ロールは Hub コンソールのロールツールを使用して設定します。詳細については、『 <i>Multidomain MDM の設定ガイド</i> 』を参照してください。
選択したロール	データーマスキングを使用するセキュリティロール。 選択したロールのリストが空の場合、データーマスキングは管理者以外のすべてのロールに適用されます。

カラムレイアウトの各フィールドにマスクを定義できます。マスクは、1つのロール、一連のロール、または管理者以外のすべてのユーザーに対して指定できます。マスクを指定する場合、値のすべてまたは一部は、アスタリスク（*）に置き換わります。

このメカニズムは、重要な情報へのアクセスを許可されていない IDD ユーザーからそのような情報を隠すために使用されます。

クレンジング関数の設定

カラムにクレンジング関数を適用するには、**【クレンジング】** タブをクリックします。

ヒント: このセクションの説明は、サブジェクト領域、サブジェクト領域の子、およびサブジェクト領域の孫の [クレンジング] タブに適用されます。

クレンジング関数について

クレンジング関数は、エンティティ内のデータ値に適用してデータを標準化したり検証したりすることができます。クレンジングライブラリとクレンジング関数は、Hub コンソールのクレンジング関数ツールを使用して設定します。

インラインクレンジング関数

IDD は、各ベースオブジェクトレコードが保存される前にそのクレンジング API を呼び出すことができます。これは、**インラインクレンジング関数**と呼ばれることもあります。クレンジング関数は、通常のデータクレンジングと標準化またはデータのカスタム検証、あるいはその両方を実行できます。設定されたクレンジング関数は、データが保存される前に呼び出されます。

入力と出力

IDD Configuration Manager は、ベースオブジェクトレコードをクレンジング関数の入力と出力に接続する手段です。ベースオブジェクトレコード内のデータは、クレンジング関数からの出力で更新されます。

ヒント: クレンジング関数の入力または出力として機能できるのは、サブジェクト領域内のレイアウトに含まれるベースオブジェクトカラムのみです。クレンジング関数のカラムを使用したいが、そのカラムを IDD アプリケーションユーザーに表示したくない場合は、カラムの [非表示] チェックボックスを選択 (チェック) します。

関連項目:

- [「カラムレイアウトプロパティ」 \(ページ 33\)](#)

クレンジング関数が呼び出されるタイミング

クレンジング関数は次のときに呼び出されます。

- プライマリデータ-IDD アプリケーションユーザーが **【保存】** ボタンをクリックしたとき
- 子データ-IDD アプリケーションユーザーが **【編集】** ダイアログで **【適用】** ボタンをクリックしたとき

IDD ユーザーがサブジェクト領域属性に入力したデータは、設定どおりにクレンジング関数に取り込まれます。その後、ベースオブジェクトレコードがクレンジング関数からの出力によって更新されます。

カスタムデータの検証

クレンジング関数を使用して、カスタムデータ検証を実行することができます。検証結果は、クレンジング関数に validationStatus 出力パラメータがある場合に処理されます。

- validationStatus パラメータが空白の場合、検証エラーはなく、処理を継続できます。
- 検証エラーがある場合、inputParameter 名とメッセージを示す一連の検証メッセージが validationStatus パラメータに含まれます。その後、各検証エラーが IDD アプリケーションの UI 上の入力値と関連付けられます。

カラムのクレンジング関数の編集

1. 設定する項目 (サブジェクト領域、サブジェクト領域の子、またはサブジェクト領域の孫) を編集します。

2. **【クレンジング】** タブをクリックします。
3. **【クレンジング】** タブで、**【クレンジングライブラリ】** ドロップダウンリストをクリックし、このカラムで使用するクレンジング関数が含まれるクレンジングライブラリを選択します。
4. **【クレンジング関数】** ドロップダウンリストをクリックし、クレンジング関数を選択します。
5. 選択したクレンジング関数の入力パラメータと出力パラメータを設定します。
 - 入力パラメータごとに、データのソースとして使用するカラムを選択します。
 - 出力パラメータごとに、データのターゲットとして使用するカラムを選択します。

ラベルの設定

【データビュー】 タブの名前やこのサブジェクト領域に関連付けられているタスクのタイトルなど、このサブジェクト領域のラベルを生成するために使用するカラムと形式を定義するには、**【ラベル】** タブをクリックします。カラムはプライマリオブジェクトの場合と論理的な子の 1 対 1 のオブジェクトのいずれかの場合があります。

以下の設定を指定してください。

設定	説明
ラベル	<p>サブジェクト領域のオブジェクトがすでに存在し、パターンを生成するためのデータがあるとき。デフォルトのパターンは{0}（サブジェクト領域名）です。ラベルの形式を指定するには、カラムを選択し、【ラベルに追加】 をクリックします。</p> <p>構文: {0} は常にサブジェクト領域名です。ラベルのカラムは {1}、{2} などです。</p> <p>例: {0} : {2}, {1}。カラムが 【名】 および 【姓】 の場合、結果は人物 Doe, John になります。</p>
タスク形式	<p>手動マージタスクのタイトルラベル。ラベルの形式を指定するには、カラムを選択し、【タスク形式に追加】 をクリックします。タスク形式は、手動マージタスクのタイトルとして使用されます。</p> <p>注: 例えば 【タスク形式】 の指定にコロンを使用する場合など、特殊文字を使用する場合は、シングルクォーテーションマーク (') かアポストロフィ (') で囲んでタスク形式を指定する必要があります。例: 'Org:'</p>
属性形式が存在しない	<p>サブジェクト領域のオブジェクトがすでに存在するが、パターンを生成するためのデータがないとき。デフォルトのパターンは{0}（サブジェクト領域名）です。</p>
新しい形式	<p>サブジェクト領域オブジェクトが新規のとき。デフォルトのパターンは 【新しい{0}】（新しいサブジェクト領域名）です。</p>
有効なカラム	<p>このサブジェクト領域で利用可能なカラム。</p>
選択したカラム	<p>ラベル形式に含めるように選択したカラム（【ラベルに追加】 または 【タスク形式に追加】 をクリックした後）。</p>

タスク割り当ての設定

サブジェクト領域のタスクの種類ごとにタスクの割り当て（ロールまたはユーザー）を設定するには、**【タスクの割り当て】** タブをクリックします。

タスクタイプを選択して**【追加】**をクリックし、サブジェクト領域に追加し、**【タスクの割り当て】** ダイアログで以下の設定を指定します。

設定	説明
タスク	割り当てを設定するタスクタイプ
ロール	選択されている場合は、割り当て先がロールであることを示します。
ユーザー	選択されている場合は、割り当て先がユーザーであることを示します。
割り当て先	このタイプのタスクを割り当てることができる特定のロールまたはユーザー（必要に応じて）。

ここで定義したタスク割り当ては、編集や削除も可能です。

詳細については、『*Multidomain MDM Data Director の実装ガイド*』を参照してください。

サブジェクト領域の子タブの順序の設定

【子の順序】 タブをクリックし、サブジェクト領域の子の順序を、サブジェクト領域のデータビューで設定します。子タブの順序を変更するには、移動する子を選択してから、適切なコマンドボタン（上、下、最初、または最後）を選択します。

設定	説明
名前	子のサブジェクト領域の名前
子のタイプ	子のリレーションのタイプ

第 9 章

サブジェクト領域の子の設定

この章では、以下の項目について説明します。

- [基本手順, 44 ページ](#)
- [サブジェクト領域の子のプロパティ, 45 ページ](#)
- [プロパティタブ, 46 ページ](#)

基本手順

サブジェクト領域の子を追加した後で、レイアウトとクレンジング関数を設定することもできます。

サブジェクト領域の子の追加

1. サブジェクト領域ツリーで、サブジェクト領域の子を追加するサブジェクト領域を選択します。
2. **[サブジェクト領域の子の追加]** をクリックします。
3. プロパティを設定します。
4. **[OK]** をクリックします。

サブジェクト領域の子の編集

1. サブジェクト領域ツリーで、サブジェクト領域の子を選択します。
2. **[サブジェクト領域の子の編集]** をクリックします。
3. 必要なプロパティを変更します（以下を参照）。
4. **[OK]** をクリックします。

サブジェクト領域の子の削除

1. サブジェクト領域ツリーで、サブジェクト領域の子を選択します。
2. **[サブジェクト領域の子の削除]** をクリックします。
3. 削除の確定を求められたら、**[はい]** をクリックします。

レイアウトの設定

【レイアウト】 タブをクリックし、レイアウトを設定します。

ヒント: このセクションの説明は、サブジェクト領域、サブジェクト領域の子、およびサブジェクト領域の孫の【レイアウト】 タブに適用されます。

クレンジング関数の設定

カラムにクレンジング関数を適用するには、【クレンジング】 タブをクリックします。

ヒント: このセクションの説明は、サブジェクト領域、サブジェクト領域の子、およびサブジェクト領域の孫の【クレンジング】 タブに適用されます。

サブジェクト領域の子のプロパティ

【サブジェクト領域の子】 ウィンドウに次のプロパティが表示されます。

プロパティ	説明
名前	このサブジェクト領域の子の内部（システム）名。IDD アプリケーション内で一意である必要があります。英字と数字のみを使用してください。その他の文字は使用できません。
表示名	IDD アプリケーションのエンドユーザーに表示される、このサブジェクト領域の子の名前。
子のタイプ	子のリレーションのタイプ 次のうち 1 つの値になります。 <ul style="list-style-type: none">- 1 対 1- 1 対多- 一部- 参照- プライマリオブジェクトの一部-子タブのフォームビュー内のプライマリオブジェクトのカラムを表示できます。これは、ベースオブジェクトに多数のカラムがあり、子タブでそれらの一部を分割する場合に便利です。
子への一致パス	子テーブルにつながる一致パス。一致パスのリストは、リレーションタイプの選択に基づいて作成されます。
デフォルトビュー	【テーブル】 ビューまたは【フォーム】 ビューに子レコードを表示するかどうかを指定します。
HM エンティティタイプ	子のタイプが【参照】 である子に対してのみ。階層マネージャのエンティティタイプで、関連付けることができるオブジェクトの種類を定義します。Hub コンソール内の階層ツールで設定する必要があります。
サブタイプカラム	サブタイプフィルタで使用するカラム。【HM エンティティタイプ】 が選択されている場合は、自動的に設定されます。
サブタイプ値	サブタイプフィルタで使用する値。【HM エンティティタイプ】 が選択されている場合は、自動的に設定されます。

関連項目：

- [「サブジェクト領域間のリレーション」](#) (ページ 25)
- [「一致パス」](#) (ページ 25)

プロパティタブ

特徴	説明
レイアウト	表示および編集のために IDD アプリケーションで利用可能なベースオブジェクトのカラム、使用する UI コンポーネントのタイプ、およびルックアップである場合にルックアップデータがローカライズされるかどうかを設定します。
クレンジング	クレンジングと検証に使用されるクレンジング関数を設定します。

第 10 章

サブジェクト領域の孫の設定

この章では、以下の項目について説明します。

- [基本手順, 47 ページ](#)
- [レイアウトの設定, 48 ページ](#)
- [クレンジング関数の設定, 48 ページ](#)
- [サブジェクト領域の孫のプロパティ, 48 ページ](#)
- [プロパティタブ, 49 ページ](#)

基本手順

サブジェクト領域の孫を追加した後、レイアウトとクレンジング関数を設定できます。

サブジェクト領域の孫の追加

1. サブジェクト領域ツリーで、サブジェクト領域の孫を追加するサブジェクト領域の子を選択します。
2. **【孫の追加】** をクリックします。
3. プロパティを設定します。
4. **【OK】** をクリックします。

サブジェクト領域の孫の編集

1. サブジェクト領域ツリーで、編集するサブジェクト領域の孫を選択します。
2. **【孫の編集】** をクリックします。
3. プロパティを編集します。
4. **【OK】** をクリックします。

関連項目：

- [「サブジェクト領域の孫のプロパティ」 \(ページ 48\)](#)

サブジェクト領域の孫の削除

1. サブジェクト領域ツリーで、削除するサブジェクト領域の孫を選択します。

2. **【孫の削除】** をクリックします。
3. 削除の確定を求められたら、**【はい】** をクリックします。

レイアウトの設定

【レイアウト】 タブをクリックし、レイアウトを設定します。

ヒント: このセクションの説明は、サブジェクト領域、サブジェクト領域の子、およびサブジェクト領域の孫の**【レイアウト】** タブに適用されます。

クレンジング関数の設定

カラムにクレンジング関数を適用するには、**【クレンジング】** タブをクリックします。

ヒント: このセクションの説明は、サブジェクト領域、サブジェクト領域の子、およびサブジェクト領域の孫の**【クレンジング】** タブに適用されます。

サブジェクト領域の孫のプロパティ

【サブジェクト領域の孫】 ウィンドウに次のプロパティが表示されます。

プロパティ	説明
名前	このサブジェクト領域の孫の内部（システム）名。IDD アプリケーション内で一意である必要があります。英字と数字のみを使用してください。その他の文字は使用できません。
表示名	IDD アプリケーションのエンドユーザーに表示される、このサブジェクト領域の子の名前。
子のタイプ	子のリレーションのタイプ 次のうち 1 つの値になります。 <ul style="list-style-type: none">- 1-Many- 論理的な 1 対 1- 一部- 参照
子への一致パス	子テーブルにつながる一致パス。一致パスのリストは、リレーションタイプの選択に基づいて作成されます。
デフォルトビュー	【テーブル】 ビューまたは 【フォーム】 ビューに子レコードを表示するかどうかを指定します。 【子のタイプ】 が 【参照】 、 【1 対多】 、 【一部】 である場合にのみ利用できます。
サブタイプカラム	レコードのフィルタ処理に使用されるカラム。例: 性別。 【参照】 リレーションタイプには 【HM エンティティタイプ】 プロパティも表示されます。
サブタイプ値	レコードのフィルタ処理に使用されるサブタイプカラムの値。例: M（男性）または F（女性）

プロパティタブ

特徴	説明
レイアウト	表示および編集のために IDD アプリケーションで利用可能なベースオブジェクトのカラム、使用する UI コンポーネントのタイプ、およびルックアップである場合にルックアップデータがローカライズされるかどうかを設定します。
クレンジング	クレンジングと検証に使用されるクレンジング関数を設定します。

第 11 章

IDD アプリケーションの削除

この章では、以下の項目について説明します。

- [基本手順, 50 ページ](#)
- [IDD アプリケーションの削除による影響, 50 ページ](#)

基本手順

IDD アプリケーションを削除する手順

1. オブジェクトツリーで、削除する IDD アプリケーションの名前を選択します。
2. **【削除】** をクリックします。
3. **【はい】** をクリックして削除を確定します。

IDD Configuration Manager により、削除した IDD アプリケーションがアプリケーションリストから削除されます。

IDD アプリケーションの削除による影響

- いったん削除された IDD アプリケーションをリカバリすることはできません。
- 削除する前に、設定をエクスポートしてバックアップを保存することを検討してください。

第 12 章

IDD アプリケーションのエクスポート

この章では、以下の項目について説明します。

- [基本手順, 51 ページ](#)
- [エクスポートについて, 51 ページ](#)

基本手順

IDD アプリケーションをエクスポートする手順

1. オブジェクトツリーで、エクスポートする IDD アプリケーションの名前を選択します。
2. **【エクスポート】** をクリックします。IDD Configuration Manager により、ZIP ファイルが作成されます。
メッセージが表示されたら、ZIP ファイルを開くか保存するかを選択します。

エクスポートについて

IDD アプリケーションをエクスポートすると、その構成のバックアップが作成されます。1 つの ZIP ファイルに、IDD アプリケーションの設定内容全体が含まれます。

関連項目：

- [「IDD アプリケーションコンポーネント」 \(ページ 64\)](#)

エクスポート後の手動設定

IDD Configuration Manager によって、利用可能な設定オプションがすべて表示されるわけではありません。一部の機能は、XML コンフィギュレーションファイルを直接エクスポートして編集することによって手動で設定する必要があります。詳細については、『*Multidomain MDM Data Director の実装ガイド*』を参照してください。変更を加えると、エクスポートしたファイルを IDD Configuration Manager に再インポートできます。

エクスポート後のインポート

この ZIP ファイルをインポートして、新しい IDD アプリケーションを作成することや既存のアプリケーションでコンポーネントを更新することができます。

関連項目：

- [「IDD アプリケーションコンポーネント」 \(ページ 64\)](#)

第 13 章

IDD アプリケーション設定の検証

この章では、以下の項目について説明します。

- [基本手順, 53 ページ](#)
- [検証について, 53 ページ](#)
- [検証結果, 54 ページ](#)

基本手順

IDD アプリケーション設定を検証する手順

1. アプリケーションリストで、検証する IDD アプリケーションの名前を選択します。
2. **【検証】** をクリックします。
IDD Configuration Manager によって、選択した IDD アプリケーションが検証され、別ウィンドウに検証結果が表示されます。
3. **【検証結果】** ウィンドウの結果を確認します。
4. **【OK】** をクリックします。

検証について

IDD アプリケーション設定を検証する理由

IDD アプリケーション設定は、ORS 内のメタデータと緩やかに結合されています。この設定には、ORS 内のオブジェクトへの参照が含まれています。ORS の変更（ベースオブジェクト、カラム、クレンジング関数などの追加、変更、または削除）は、IDD 設定に自動的に反映されません。このため、IDD 検証プロセスが必要となり、定期的に繰り返される必要があります。

IDD アプリケーション設定を検証するタイミング

検証は以下の場合に実行されます。

- IDD Configuration Manager でユーザーによって要求された場合
- IDD 設定をインポートする場合

- アプリケーションをデプロイする前に、アプリケーションサーバーが起動されるとき

検証結果

注: 検証ステータスが「致命的なエラー」の IDD アプリケーションをデプロイすることはできません。

「検証結果」ウィンドウには、以下の情報が表示されます。

- 検証ステータス-アプリケーションの最新の検証ステータス。検証ステータスは、検出された最高レベルの（最も深刻な）エラーを表す 1 つの値です。
- 個別の問題-検証中に発生した問題に関する次の情報が含まれるテーブル。

カラム	説明
エラーコード	検証の問題に関連付けられているエラーコード。
検証レベル	検証の問題の重要度。
メッセージ	検証の問題を説明するメッセージ。

注: 関連付けられている検証の問題のオブジェクトが対称領域ツリーに赤で表示されます。

関連項目：

- [「検証レベル」 \(ページ 54\)](#)
- [「サブジェクト領域の設定」 \(ページ 23\)](#)

検証レベル

検証レベルにより、検証プロセスで発生した問題の重要度が決まります。

検証レベル	説明
未検証	IDD アプリケーションは検証されていません。
エラーなし	検証中にエラーや警告が見つかりませんでした。
情報	ユーザーに情報を表示します。設定の変更は不要です。
警告	設定を変更する必要がある可能性があります、ランタイムの問題は発生しません。
エラー	設定エラーを修正する必要があります。ランタイムの問題が予想されます。
重大なエラー	エラーと同じですが、より緊急な対処が必要な問題を示しています。
致命的なエラー	IDD アプリケーションが完全に動作しなくなるエラー。どのような状況でもアプリケーションはデプロイされません。

検証結果の解釈

検証の問題のリスト（存在する場合）を確認し、問題ごとに、設定に対して特定の変更が必要かどうか、およびその変更を判断します。

第 14 章

バンドルの移行

この章では、以下の項目について説明します。

- [基本手順, 56 ページ](#)
- [バンドルの移行について, 56 ページ](#)

基本手順

1. IDD アプリケーションのリストで、ビジネスエンティティサービスに移行する IDD アプリケーションメタデータの名前を選択します。
2. **【バンドルの移行】** をクリックします。
「**BES メタデータの移行に成功しました**」というメッセージが表示されます。
3. **【閉じる】** をクリックします。

バンドルの移行について

【バンドルの移行】 ボタンをクリックすると、サブジェクト領域に属し、ビジネスエンティティレコードに移行されるレコードのメタデータがローカライズされます。

第 15 章

アプリケーションの状態の変更

この章では、以下の項目について説明します。

- [基本手順, 57 ページ](#)
- [アプリケーションの状態について, 57 ページ](#)

基本手順

1. IDD アプリケーションのリストで、デプロイまたはデプロイ解除する IDD アプリケーションの名前を選択します。
2. **【アプリケーションの状態】** をクリックします（またはマウスポインタを置きます）。
3. 変更先のアプリケーションの状態を選択します。
4. IDD アプリケーションをデプロイした場合は、IDD アプリケーションをテストします。

アプリケーションの状態について

アプリケーションの状態は、IDD Configuration Manager でユーザーによって制御されます。アプリケーションの状態には、IDD アプリケーションの目的のデプロイメントが格納されます。

アプリケーションの状態

アプリケーションの状態は、以下の値のいずれかになります。

名前	説明
未デプロイ	IDD アプリケーションがデプロイされていません。アプリケーションの開発中に便利です。アプリケーションをデプロイする追加のオーバーヘッドを発生させずに、変更を加えて保存できます。
制限されたデプロイメント	IDD アプリケーションがデプロイされますが、管理者であるユーザーのみがログインできます。利用可能なアプリケーションのリストにアプリケーションは表示されません。完全な URL を使用してアプリケーションにアクセスする必要があります。
完全なデプロイメント	IDD アプリケーションが完全な使用のためにデプロイされます。アプリケーションのリストに表示され、認証されたユーザーがアプリケーションを実行できます。

アプリケーションデプロイメント

デプロイメントは、IDD の設定を行い、その設定を IDD アプリケーションとして利用できるようにするプロセスです。

致命的なエラーのあるアプリケーションはデプロイできない

IDD アプリケーションは、設定にエラーが含まれている場合でもデプロイできます。IDD アプリケーションをデプロイできないのは、致命的なエラーが含まれている場合のみです。エラーが含まれている IDD アプリケーションのデプロイは、アプリケーションの構築時に他の部分が不完全でも設定の一部をテストするために実装可能にする場合に便利ことがあります。

デプロイメントイベント

デプロイメントは、次のイベントに対する応答として実行されます。

イベント	説明
アプリケーションサーバーの起動	【制限されたデプロイメント】または【完全なデプロイメント】に設定されたすべてのアプリケーションが最初に検証されます。検証レベルが【致命的なエラー】でない場合、アプリケーションはデプロイされます。このとき、致命的なエラーがないか確認するために部分的な検証のみが実行されます。
インポート/保存	アプリケーションがインポートまたは保存されたときはいつでも、デプロイメントも実行されます（状態が【未デプロイ】でない限り）。

第 16 章

IDD アプリケーションコンポーネントのインポート

この章では、以下の項目について説明します。

- [基本手順, 59 ページ](#)
- [インポートについて, 59 ページ](#)
- [インポートオプション, 60 ページ](#)

基本手順

IDD アプリケーションコンポーネントをインポートする手順

1. アプリケーションコンポーネントをインポートする場合は、オブジェクトツリーで、アプリケーションコンポーネントのインポート先の IDD アプリケーションの名前を選択します。
2. **【インポート】** をクリックします（またはマウスポインタを置きます）。
3. インポートオプションを選択します。
4. メッセージが表示されたら、インポート対象のアプリケーションコンポーネントを選択します。
5. **【インポート】** をクリックします。

Data Director により、選択したコンポーネントがインポートされ、オブジェクトが検証されます。

関連項目：

- [「インポートオプション」 \(ページ 60\)](#)

インポートについて

【インポート】 コマンドを使用して、1 つ以上の外部コンフィギュレーションファイルが使用されている IDD アプリケーションを作成または更新します。

インポートオプション

「インポート」コマンドには、次の3つのインポートオプションが用意されています。2つはアプリケーション全体をインポートするためのもので、1つは既存のアプリケーションにコンポーネントをインポートするためのものです。

インポートオプション	説明
IDD 設定のみのインポート (XML)	IDD 設定 XML をインポートすることによって新しい IDD アプリケーションを作成します。このオプションを使用して、同じ名前の既存の IDD アプリケーションを置き換えることもできます。その場合は、(インポートの前に削除を実行した場合と同様に) 既存のアプリケーションが完全に置き換えられます。
IDD アプリケーション全体のインポート (Zip)	さまざまなコンポーネントファイル (XML、リソースバンドル、ヘルプファイルなど) が含まれる Zip ファイルをインポートすることによって、新しい IDD アプリケーションを作成します。
既存の IDD アプリケーションへのインポート	個別のファイルをインポートすることによって、既存の IDD アプリケーションを更新します。このオプションは、IDD アプリケーションのコンポーネントファイルのいずれかを追加または置き換えるために使用します。

関連項目：

- [「IDD アプリケーションコンポーネント」 \(ページ 64\)](#)

第 17 章

IDD アプリケーションの再デプロイ

- [IDD アプリケーションの再デプロイ, 61 ページ](#)

IDD アプリケーションの再デプロイ

「再デプロイ」ボタンをクリックすると、選択した IDD アプリケーションが再デプロイされます。このボタンは、アプリケーションが完全または限定デプロイメント状態のいずれかにあるときにアクティブになります。「再デプロイ」をクリックすると、Java Memory Model (JMM) からアプリケーションが削除され、再度デプロイが試みられます。

「ステータス」カラムに、アプリケーションが正常にデプロイされたかどうかが表示されます。IDD アプリケーションを選択すると、タブの下部にあるデプロイメントステータスパネルにエラー情報（エラーがある場合）とともにアプリケーションの状態が表示されます。

関連項目：

- [「アプリケーションの状態の変更」 \(ページ 57\)](#)

第 18 章

IDD アプリケーションのキャッシュのクリア

この章では、以下の項目について説明します。

- [基本手順, 62 ページ](#)
- [IDD アプリケーションのメタデータキャッシュ, 62 ページ](#)

基本手順

IDD アプリケーションのメタデータキャッシュをクリアする手順

1. IDD アプリケーションのリストで、キャッシュをクリアするデプロイ済みの IDD アプリケーションの名前を選択します。
2. **【キャッシュのクリア】** をクリックします。
3. 結果のメッセージが表示されたら、**【閉じる】** をクリックします。

IDD アプリケーションのメタデータキャッシュ

IDD アプリケーションの MDM Hub メタデータは、キャッシュに格納されています。Hub コンソールを介してメタデータオブジェクトの設定を変更した場合は、**【キャッシュのクリア】** をクリックして IDD でメタデータを再ロードしてください。

メタデータオブジェクトの設定変更としては、サブジェクト領域が関連付けられているベースオブジェクトへの新しいカラムの追加や、クレンジング関数定義の編集などがあります。

第 19 章

デプロイされた IDD アプリケーションのテスト

- [デプロイされた IDD アプリケーションのテスト, 63 ページ](#)

デプロイされた IDD アプリケーションのテスト

すべての設定変更を保存し、IDD アプリケーションをデプロイすると、テストのために IDD Configuration Manager 内から IDD アプリケーションを起動できます。

関連項目：

- [「アプリケーションの状態の変更」 \(ページ 57\)](#)

基本手順

1. オブジェクトツリーで、テストする IDD アプリケーションの URL をクリックします。
2. IDD アプリケーションにログインします。
3. IDD アプリケーション内を確認し、設定したすべての機能（サブジェクト領域、タスク、検索など）を実行してみます。

テストのヒント

- ハブメタデータが変更された場合は、IDD キャッシュをクリアします。 [第 18 章, 「IDD アプリケーションのキャッシュのクリア」 \(ページ 62\)](#) を参照してください。
- ブラウザの cookie と他のブラウザキャッシュは手動でクリアします。
- 必要に応じて、Informatica MDM Hub を実行しているアプリケーションサーバーを停止したり起動したりします。
- デプロイされた IDC コントロールをテストするには、*Multidomain MDM Data Director* の実装ガイドを参照してください。

第 20 章

IDD アプリケーションコンポーネント

この章では、以下の項目について説明します。

- [IDD アプリケーションコンポーネント, 64 ページ](#)
- [IDD コンフィギュレーションファイル, 64 ページ](#)
- [IDD バンドル, 65 ページ](#)
- [メタデータバンドル, 65 ページ](#)
- [メッセージバンドル, 65 ページ](#)
- [エラーコードバンドル, 65 ページ](#)
- [オンラインヘルプファイル, 65 ページ](#)
- [アプリケーションロゴ, 66 ページ](#)
- [ユーザーイグジットの実装, 66 ページ](#)

IDD アプリケーションコンポーネント

IDD アプリケーションは、コンポーネントファイルを含む ZIP ファイルとしてシステムデータベース (C_REPOS_DS_CONFIG) に格納されます。このセクションでは、この ZIP ファイルに含まれるファイルについて説明します。IDD Configuration Manager は、アプリケーションがエクスポートされるときにこの ZIP ファイルを作成します。

また、この ZIP ファイルを IDD Configuration Manager にインポートして、新しい IDD アプリケーションを作成することもできます。また、個々のコンポーネントを既存の IDD アプリケーション設定にインポートすることもできます。コンポーネントは、[既存の IDD アプリケーションにインポート] ダイアログの [設定タイプ] ドロップダウンリストに一覧表示されます。

IDD コンフィギュレーションファイル

BDDConfig.xml ファイルは、アプリケーションのメインコンフィギュレーションファイルです。siperian-BDD-config*.xsd XML スキーマに従う必要があります。

IDD バンドル

IDD アプリケーションで定義されたオブジェクトのラベルの付いたリソースバンドル（サブジェクト領域など）。

- **デフォルト:** BDDBundle.properties
- **ローカライズ版:** BDDBundle_XX.properties。ここで、XX はロケールの 2 文字の ISO コードです。ロケールコードのリストについては、『*Multidomain MDM Data Director の実装ガイド*』を参照してください。

メタデータバンドル

ORS で定義されたオブジェクトのラベルの付いたリソースバンドル（ベースオブジェクト、カラムなど）。

- **デフォルト:** MetadataBundle.properties
- **ローカライズ版:** MetadataBundle_XX.properties。ここで、XX はロケールの 2 文字の ISO コードです。

メッセージバンドル

IDD アプリケーションに表示されるテキストのあるリソースバンドル。

- **デフォルト:** MessagesBundle.properties
- **ローカライズ版:** MessagesBundle_XX.properties。ここで、XX はロケールの 2 文字の ISO コードです。

エラーコードバンドル

IDD アプリケーションによって生成されるエラーメッセージのテキストのあるリソースバンドル。

- **デフォルト:** ErrorCodeBundle.properties
- **ローカライズ版:** ErrorCodeBundle_XX.properties。ここで、XX はロケールの 2 文字の ISO コードです。

オンラインヘルプファイル

IDD ヘルプ

IDD アプリケーションの機能を説明するデフォルトのヘルプ。

- **デフォルト:** BDDHelp.zip
- **ローカライズ版:** BDDHelp_XX.zip。ここで、XX はロケールの 2 文字の ISO コードです。

カスタム IDD ヘルプ

特定の IDD アプリケーション専用の固有のヘルプになるようにカスタマイズされたヘルプ。このヘルプファイルでは、実装固有の使用方法の説明に加えて、組織の手順やポリシーなどの関連情報を提供できます。

- **デフォルト:** CustoBDDHelp.zip
- **ローカライズ版:** CustomBDDHelp_XX.zip。ここで、XX はロケールの 2 文字の ISO コードです。

アプリケーションロゴ

IDD アプリケーションによって画面の左上に表示されるロゴイメージの置き換え。Informatica ロゴのサイズは、幅が 147 ピクセルで高さが 31 ピクセルです。最良の結果を出すには、置き換えるロゴの寸法がほぼ同じである必要があります。

次のファイル名とファイルタイプのいずれかがサポートされています。

- logo.gif
- logo.png
- logo.jpg
- logo.jpeg

ユーザーイグジットの実装

Java コードベースのカスタムユーザーイグジット。

第 21 章

IDD アプリケーションへのコントロールのバインド

この章では、以下の項目について説明します。

- [基本手順, 67 ページ](#)
- [コントロールプロパティ, 69 ページ](#)

基本手順

コントロールの追加

1. [コントロール] タブで、**[追加]** をクリックします。
2. コントロールプロパティを指定します。
3. **[OK]** をクリックして、新しいコントロールを保存します。

関連項目：

- [「コントロールプロパティ」 \(ページ 69\)](#)

コントロールの編集

1. [コントロール] タブで、編集するコントロールを選択します。
ここに手順の結果を入力します（オプション）。
2. **[編集]** をクリックします。
3. コントロールプロパティを指定します。
4. **[OK]** をクリックして変更を保存します。

関連項目：

- [「コントロールプロパティ」 \(ページ 69\)](#)

コントロールの削除

1. [コントロール] タブで、削除するコントロールを選択します。
2. [削除] をクリックします。
3. [はい] をクリックして削除を確定します。

URL の表示

このボタンをクリックすると、サードパーティアプリケーションからこのコントロールを起動するために必要な URL が表示されます。この URL を、このコントロールを呼び出すサードパーティアプリケーションに埋め込むことができます。

1. [コントロール] タブで、必要なコントロールを選択します。
2. [URL の表示] をクリックします。
3. メッセージが表示されたら、サブジェクト領域グループを選択します。
4. 必要に応じて、URL テキストをコピーし、サードパーティアプリケーションに埋め込みます。
5. [閉じる] をクリックします。

コントロールのデプロイ

IDD アプリケーションをデプロイすると、コントロールはデプロイされます。関連付けられた IDD アプリケーションが現在デプロイされている場合は、更新されたコントロールの変更を保存すると、それらのコントロールは自動的にデプロイされます。これらのコントロールインスタンスは、同じアプリケーションサーバー環境内のアプリケーションインスタンスと同じ Java Memory Model (JMM) でホストされます。

関連項目：

- [「アプリケーションデプロイメント」 \(ページ 58\)](#)

コントロールデータを含む ZIP ファイルのアップロード

1. [参照] をクリックします。
2. アップロードする ZIP ファイルに移動し、それを選択します。
3. [開く] をクリックします。

コントロールプロパティ

プロパティ	説明
名前	このコントロールの内部（システム）名。英字と数字のみを使用してください。その他の文字は使用できません。
表示名	エンドユーザーに表示されるこのコントロールの名前。
コントロールタイプ	コントロールのタイプ。

第 22 章

ビジネスエンティティおよびビジネスエンティティサービス構成ファイルの生成

この章では、以下の項目について説明します。

- [ビジネスエンティティおよびビジネスエンティティサービス構成ファイルの生成の概要, 70 ページ](#)
- [ビジネスエンティティおよびビジネスエンティティサービス構成ファイルの生成, 71 ページ](#)

ビジネスエンティティおよびビジネスエンティティサービス構成ファイルの生成の概要

コンフィギュレーションマネージャを使用して、Informatica Data Director アプリケーション設定に基づいたビジネスエンティティおよびビジネスエンティティサービス構成ファイルを生成できます。

Informatica Data Director にエンティティ 360 フレームワークを設定して使用するには、ビジネスエンティティを設定する必要があります。MDM Hub でビジネスエンティティを使用するには、ビジネスエンティティおよびビジネスエンティティサービスを設定する必要があります。最も簡単にビジネスエンティティおよびビジネスエンティティサービスを設定するには、コンフィギュレーションマネージャを使用して構成ファイルを生成します。

MDM Hub のビジネスエンティティは、Informatica Data Director のサブジェクト領域と類似しています。コンフィギュレーションマネージャは、Informatica Data Director サブジェクト領域の設定に基づいてビジネスエンティティ構成ファイルを作成します。コンフィギュレーションマネージャが構成ファイルを生成すると、すぐにビジネスエンティティおよびビジネスエンティティサービスを MDM Hub で使用できるようになります。

オペレーショナル参照ストアの Informatica Data Director アプリケーション設定が複数あり、アプリケーションでサブジェクト領域名が重複している場合は、Informatica Data Director グローバルプロパティ `IDD2COCSCConverter.prefixCoNames` を `true` に設定します。`IDD2COCSCConverter.prefixCoNames` が `true` の場合、変換プロセスは、サブジェクト領域名に Informatica Data Director アプリケーション名のプレフィックスを付けて、ビジネスエンティティに名前を付けます。プレフィックスにより、オペレーショナル参照ストアの各ビジネスエンティティ名が確実に一意になります。ビジネスエンティティおよびビジネスエンティティサービス構成を生成する前に、`IDD2COCSCConverter.prefixCoNames` が `true` に設定されていることを確認してください。

ビジネスエンティティおよびビジネスエンティティサービス構成ファイルの生成

ビジネスエンティティおよびビジネスエンティティサービス構成ファイルを生成するには、Informatica Data Director コンフィギュレーションマネージャを使用します。

1. コンフィギュレーションマネージャの **【アプリケーション】** ペインで、ビジネスエンティティおよびビジネスエンティティサービス構成内に構成を生成する Informatica Data Director アプリケーションを選択します。
2. **【ビジネスエンティティスキーマの生成】** をクリックします。
コンフィギュレーションマネージャによって、ビジネスエンティティとビジネスエンティティサービスの設定が生成されます。
3. コンフィギュレーションマネージャに、ビジネスエンティティおよびビジネスエンティティサービス構成の生成中に発生した問題のメッセージが表示されます。メッセージは、コンフィギュレーションマネージャが生成処理中に問題を解決したかどうかを示し、および問題解決のためにコンフィギュレーションマネージャが行った変更について説明します。コンフィギュレーションマネージャが問題を解決しなかった場合は、問題と、問題解決のために行える推奨アクションを書き留めます。

索引

I

IDD Configuration Manager

ホームページ [11](#)

IDD アプリケーション

アプリケーションの状態 [57](#)

起動 [63](#)

コンポーネント [64](#)

削除 [50](#)

追加 [16](#)

テスト [63](#)

デプロイ [58](#)

プロパティ [17](#), [19](#)

編集 [18](#)

ロゴ [66](#)

IDD アプリケーションのテスト [63](#)

IDD アプリケーションのデプロイ [58](#)

IDD コンフィギュレーションファイル [64](#)

IDD バンドル [65](#)

あ

アプリケーションの状態 [57](#)

アプリケーションロゴ [66](#)

え

エラーコードバンドル [65](#)

お

オンラインヘルプファイル [65](#)

か

カラムレイアウトプロパティ [33](#)

完全なデプロイメント [58](#)

こ

コントロール

URL [68](#)

ZIP のアップロード [68](#)

削除 [68](#)

追加 [67](#)

デプロイ [68](#)

プロパティ [69](#)

編集 [67](#)

さ

サブジェクト領域

一致設定 [36](#)

一致パス [25](#)

階層 [24](#)

概要 [24](#), [29](#)

クレンジング関数 [40](#), [45](#), [48](#)

検索 [38](#)

子タブ [43](#)

削除 [30](#)

スタイルの編集 [33](#)

タスクの割り当て [43](#)

タブ [26](#)

追加 [30](#)

ツリー [26](#)

データセキュリティ [39](#)

プロパティ [30](#)

編集 [30](#)

ラベル [42](#)

リレーションタイプ [25](#)

レイアウト [32](#), [45](#), [48](#)

サブジェクト領域グループ

概要 [24](#), [27](#)

削除 [28](#)

追加 [27](#)

プロパティ [28](#)

編集 [27](#)

サブジェクト領域の子

概要 [24](#), [44](#)

削除 [44](#)

追加 [44](#)

プロパティ [45](#)

編集 [44](#)

サブジェクト領域の孫

概要 [24](#), [47](#)

削除 [47](#)

追加 [47](#)

プロパティ [48](#)

編集 [47](#)

せ

制限されたデプロイメント [58](#)

セキュリティフィルタの設定 [39](#)

て

デプロイメントなし [58](#)

ひ

ビジネスエンティティ 構成

構成ファイルの生成 [70](#)

ビジネスエンティティサービス 構成

構成ファイルの生成 [70](#)

ほ

ホームページ [11](#)

め

メッセージバンドル [65](#)

ろ

ロゴ [66](#)

ロゴイメージ [65](#)